

出生数と外国人増加数

日本の人口が減少している。人口の変動は「自然増減（出生と死亡の差）」と「社会増減（外国人の転入、日本人の転出など）」で捉えることができる。日本の人口減少の要因は、1980年代以降の少子高齢化で、2007年以降は死亡数が出生数を上回る「自然減」の状態が続いている。一方で、日本に滞在する外国人は増加している。出入国在留管理庁は、2024年末現在の在留外国人数は376万8,977人で、前年末比+35万7,985人（+10.5%）で過去最高を更新したと発表した。

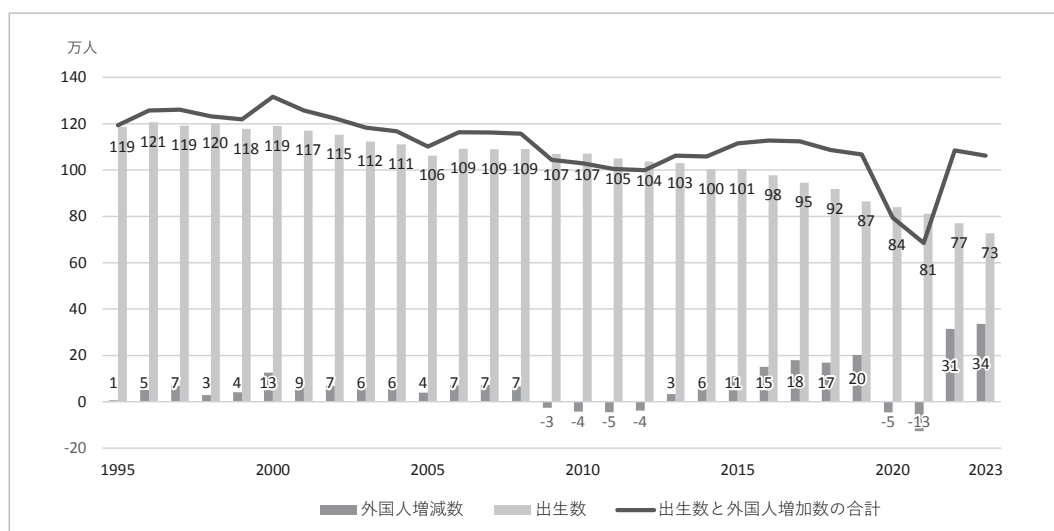
外国人居住者数の増加の主な要因としては、①外国人財の受け入れに対するビザの要件が緩和され在留資格の取得が容易になったこと、②技能実習制度・特定技能制度により外国人労働者が日本で働く機会が増えたこと、③日本の大学や専門学校で学ぶ外国人留学生が増えたことが挙げられる。

年間の出生数と外国人の増加数を比較すると（図表）、出生数が徐々に減少しているのに対し、外国人の増加数が拡大傾向にあるのが見てとれる。リーマンショック、東日本大震災、コロナ禍に一時的にマイナスとなっているが、ここ数年は30万人規模で増加している。2023年で比較すると、出生数が73万人に対し、外国人の増加数が33.6万人となっており、外国人の増加数は出生数のおよそ半分に達している。1995年の出生数118万7千人に対し、2023年は同72万7千人と46万人減少した。一方で、外国人の増加数が1995年は6千人だったのに対し2023年は33万6千人となり、33万人拡大した。出生数の減少分を外国人の増加分が埋めている。

高齢化社会で年間の死亡者数は当面増加するため、自然減の状態は続く。少子化で出産可能年齢の女性の数自体も減少する中、出生率を高める政策も大切だが、それ以外の方策もとる必要があるのではないだろうか。子育て支援の政策を否定するものではないが、高校までの授業料無償化や子どもの医療費の無償化などは税で賄っていくものになる。日本に在留する外国人の場合は、多くがすでに教育を受け、企業で働き、納税している。もちろん、外国人が流入することに対する懸念があることも承知している。しかしながら、彼らに対して住みやすい環境をつくることで、日本の人口減少を止めることはできないだろうか。

（商工総合研究所 主任研究員 中谷京子）

（図表）出生数と外国人の増加数



（出所）出生数の推移 厚生労働省 人口動態総覧

在留外国人数の推移 2005年まで法務省HP 出入国在留管理庁 登録外国人統計

https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_touroku.html

2006年から2012年まで <https://www.moj.go.jp/isa/content/001425981.pdf>

2013年以降 <https://www.moj.go.jp/isa/content/001425981.pdf>

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.moj.go.jp%2Fisa%2Fcontent%2F001403956.xlsx&wdOrigin=BROWSELINK>

（筆者作成）